

SPARC 事業および連携開設科目についての学生アンケート調査 (国際教養学部・教育学部)

国際教養学部では令和7年度入学生から全員が地域活性化人材育成事業（SPARC）ベーシックコースを受講が義務付けられた。3年生からは SPARC アドバンスコースを任意で受講することができる。また、（一社）学修評価・教育開発協議会が開設する連携開設科目の運用を令和6年度から始めている。そこで、これらの連携開設科目の活用についての学生アンケート調査を実施したので、その結果を報告する。集計結果を表1に示す。

アンケート名： 地域活性化人材育成事業および連携開設科目についての学生アンケート調査
実施日： 令和7年6月5日（フレッシュマン・セミナー）
方法： Google forms による WEB アンケート
対象学生： 105 人（国際教養学部 57 人、教育学部 48 人） 回答者： 105 人（回答率 94.6%）

1. アンケート集計結果の概要

質問1「卒業後、県内で働く意思がありますかの質問」に対して、宮崎県内で働きたいと思っている学生数は、教育学部生では 69%（33 人）であるのに対して、SPARC ベーシックコースの受講を全員に課している国際教養学部生では 7%（4 人）であり、現時点で県内就職を決めている学生が少ないことが分かる。

質問2「地域活性化に寄与できる人材育成についての質問」には、49%（51 人）の学生が「関心がある」と回答し、「関心がない」の 21%（22 人）を大きく上回っている。

質問3「連携開設科目」を受講してみたいと思う学生は 28%（29 人）に留まり、どちらともいえないとの回答は 53%（56 人）と多くなった。「連携開設科目」への理解が進んでいないことが分かる。

質問4連携開設科目を受講する場合の科目数は、2～3 科目 26%（27 人）が最も多く、40%（42 人）の学生が連携開設科目の受講を考えていないと回答した。

質問5（一社）学修評価・教育開発協議会が開設する「連携開設科目」の中で「観光事業論」24%（25 人）、「ジェンダー論」22%（23 人）を受講したいと回答した学生が多くなっている。

質問6 SPARC プログラムの「連携開設科目」では、「商品開発・ものづくり概論」23%（24 人）、「生活デザイン・ものづくり概論」19%（20 人）、「プレゼンテーション技法」18%（19 人）で、受講希望が多くなっている。アドバンスコースの必修科目である「地域キャリアデザイン1（キャリア）」の受講希望は 15%（16 人）に留まっており、アドバンスコースに多くの受講生が期待できないことを示している。

質問7 今後開設して欲しい「連携開設科目」の分野について、国際教養学部では「韓国語」「国際関係」「観光・ホスピタリティ」の分野が、教育学部では「教職関係」「韓国語」の分野をそれぞれの学部の約 40%の学生が望んでいる。

質問8 連携開設科目のメリットについては、62%（65 人）の学生は、「本学では開講されていない分野の他大学の授業を、追加の学費を支払わずに受講することができる」と回答している。次いで「オンデマンド方式で開講される連携開設科目は、自分の好きな時間に受講することができる」が 36%

(38 人)となっている。その他の記述意見として、「新しい視野や他大学の学生の交流できる」をメリットと答えた学生がいた。

質問 9 連携開設科目のデメリットについては、「対面授業ではないので、一方的な授業になりやすい (36% 38 人)」が最も多くなった。次いで、「グループワークなどのアクティブ・ラーニングが難しい (27% 28 人)」、「連携開設科目の中に、受講したい科目が少ない (27% 26 人)」となった。記述意見では、「授業内容やレベルが本学と異なる可能性がある」との意見もあった。

質問 10 連携開設科目についての自由記述の意見 (ChatGPT-3.5 による要約) は、「学生は、より多くの連携開設科目が開設され、地域の伝統工芸や文化に関する科目などの自分の興味に合った分野を選べるようになることを望んでいる。また、他大学との交流によって多様な意見を知る機会や教育学部の学生も SPARC に参加できるようにしてほしい」となっている。

2. 解析結果

アンケートを通じて明らかになった方向性及び課題を列举する。

1. 連携開設科目には、学生には本学では開講されていない分野の授業を受講できるメリットがある。今回のアンケート調査では、現在、開講している連携開設科目の中で、「観光事業論」「ジェンダー論」「商品開発・ものづくり概論」「プレゼンテーション技法」のいずれかを受講したいと、国際教養学部の延べ 95%の学生が回答している。
2. 一方で、国際教養学部の 28%の学生が連携開設科目の中に受講したい科目が少ないと答えている。今後開講を期待する分野として「国際関係」「観光・ホスピタリティ」「韓国語」を多くの学生が挙げている。「韓国語」については、宮崎大学が連携開設科目にリストアップしている「教養韓国語Ⅰ」「教養韓国語Ⅱ」を本学の SPARC 科目に追加することで対応できると考えられる。
3. 連携開設科目の多くは日本語で実施されるので、英語で授業を行う国際教養学部では、英語力の育成には繋がらないという問題がある。特に、国際教養学部には 40 人以上の留学生在籍しており、SPARC の地域活性化人材育成が留学生に対して教育効果があるのかという疑問もある。
4. アドバンスコースの選択必修科目である「ビジネス実践演習 1」の今年度の受講生数 (13 人)、および必修科目である「地域キャリア デザイン 1 (キャリア)」のアンケートでの受講希望者数 (16 人) から判断すると、アドバンスコースの受講生は 15 人程度と見積もられる。
5. 卒業時にベーシックコースおよびアドバンスコースを併せて 30 単位以上取得した学生には「未来共創教育プログラム修了書」が授与される。未来共創教育プログラム修了予定者 (修了者) は、採用活動等において協力企業のインセンティブの付与が受けられることになっている。本学のアドバンスコースの開始は 3 年生であり、インセンティブの付与を受けられる学生は多くないと思われる。
6. 取得した連携開設科目の単位は、国際教養学部の自由選択科目 (16~18 単位) に充当するのが適当と思われる。
7. 今後の連携開設科目を活用した人材育成の方向性としては、国際教養学部の英語教育によって、学部の教育方針である「世界を舞台に活躍できる国際人」に育成された一部の学生が、連携開設科目の活用によって SPARC ディプロマポリシーである科学的思考力 (DP1)、俯瞰力/構想力 (DP2)、繋ぐ力/構想実現力 (DP3) を身につけることになる。

表 1. 地域活性化人材育成事業および連携開設科目についての学生アンケート調査

質問	選択肢等	回答数 (人)		合計
		国際 教養	教育 学部	
質問 1 SPARC は地域で活躍出来る人材育成を目的としている。卒業後あなたは地域内で働く気持ちがありますか。	・ 宮崎県内で働きたいと思っている ・ 九州地域内で働きたいと思っている ・ 将来どこで働くかは決まっていない	4	33	37
		20	9	29
		33	6	39
質問 2 地域活性化に寄与できる人材育成に関心がありますか。	・ 関心がある ・ 特に、関心がない ・ どちらとも言えない	26	25	50
		15	7	22
		16	15	31
質問 3 他大学が開設する連携開設科目を受講してみたいと思いますか？	・ 受講してみたい ・ 受講したくない ・ どちらとも言えない	19	10	29
		13	6	19
		25	31	56
質問 4 連携開設科目は30単位を上限にして受講することができます。何科目ぐらい受講したいですか？	・ 6科目以上 (12単位以上) ・ 4～5科目 (8単位～10単位) ・ 2～3科目 (4単位～6単位) ・ 1科目 (2単位) ・ 受講は考えていない	6	0	6
		6	7	13
		18	9	27
		6	9	15
		20	22	42
質問 5 (一社) 学修評価・教育開発協議会が開設する連携開設科目の中で受講したいと思う科目を選んで下さい。(複数回答可)	・ コミュニティ防災 (関西国際大学) ・ データサイエンス (関西国際大学) ・ キリスト教と多文化社会 (前橋国際大学) ・ 現代社会と聖書 (前橋国際大学) ・ 人工知能とその活用 (富山国際大学) ・ ジェンダー論 (富山国際大学) ・ 観光事業論 (札幌国際大学) ・ 北海道学 (札幌国際大学) ・ 特になし	8	4	12
		3	4	7
		4	2	6
		4	1	5
		4	5	9
		9	14	23
		20	5	25
		4	3	7
		22	21	43
質問 6 SPARC プログラムの連携開設科目の中で受講したいと思う科目を選んで下さい。(複数回答可)	・ 商品開発・ものづくり概論 ・ 日向神話と神楽 ・ プレゼンテーション技法 ・ 地域キャリアデザイン1 (キャリア) ・ 「短歌県みやざき」ことばの力と牧水入門 ・ 亜熱帯薬食資源学 ・ 生活デザイン・ものづくり概論 ・ 特になし	12	12	24
		7	7	14
		13	6	19
		10	6	16
		5	2	11
		4	2	10
		7	13	20
		26	23	49
質問 7 今後開設されたら、受講したい連携開設科目の分野を選んで下さい (複数回答可)。	・ ビジネス ・ 観光・ホスピタリティ ・ アート・デザイン ・ 政治学 ・ 国際関係 ・ 自然科学 ・ 中国語 ・ 韓国語 ・ 教職関係 ・ 特になし	9	4	13
		21	7	28
		11	7	18
		5	2	7
		27	6	33
		1	4	5
		9	4	13
		25	18	43
		4	20	24
		7	11	18
質問 8-1 連携開設科目にはどのようなメリット (利点) があると思いますか (複数回答可)	・ 本学では開講されていない分野の他大学の授業を、追加の学費を支払わずに受講できる。 ・ オンデマンド方式で開講される連携開設科目は、自分の好きな時間に受講することができる。 ・ 国際教養学部の授業は英語で行われるが、日本語で学びたい学生が他大学の日本語の連携開設科目を受講することができる。 ・ 国際教養学部では海外研修 (14 単位) を課しているが、半期で取得できる単位数が通常の 22 単位に比べて少ない。連携開設科目の活用で海外留学中であっても受講科目数を増やすことができる。 ・ 連携開設科目の利用によって、本学の開講科目数を減らすことができ、教員の勤務時間を学生指導等にさくことができる。 ・ メリットを特に感じない。	38	27	65
		17	21	38
		17	12	29
		14	5	19
		5	8	13
		4	9	13

質問 8-2 上記質問の選択肢以外のメリットがあれば、記入して下さい（自由記述）。	（要約）自分の新たな興味・関心から学びへと繋がり、他大学の学生の交流できる。				
質問 9-1 連携開設科目にはどのようなデメリット（欠点）があると思いますか(複数回答可)	・ 連携開設科目の中に、受講したい科目が少ない。 ・ 連携開設科目の開講は他大学まかせであり、毎年、開講科目が変更される可能性がある。 ・ 対面授業ではないので、一方的な授業になりやすい。 ・ グループワークなどのアクティブ・ラーニングが難しい。 ・ オンデマンド授業で、自分のモチベーション（学習意欲）を保つのが難しい。 ・ オンラインではすぐに質問ができないので、教育効果が薄い。 ・ オンライン授業が不慣れに場合は、本学の受講生は同じ教室で同時に受講するなどの工夫が必要である。 ・ デメリットは特に感じない。	16	10		26
		5	9		14
		19	19		38
		16	12		28
		13	9		22
		11	9		20
		8	5		11
		13	8		21
質問 9-2 上記質問の選択肢以外のデメリットがあれば、記入して下さい（自由記述）。	（要約）授業内容やレベルが本学と異なる可能性がある				
質問 10 連携開設科目について意見があれば、意見をお書き下さい（自由記述）。	（要約）学生からは、より多くの科目が開設され、地域の伝統工芸や文化に関する科目などの自分の興味に合った分野を選べるようになることを望んでいる。また、他大学との交流によって多様な意見を知る機会や教育学部の学生もSPARCに参加できるようにして欲しいという意見もあった。				